

第8回経営改善委員会 議事概要

1. 日時 令和5年6月2日（金） 14時00分～16時00分

2. 場所 JR北海道本社 会議室
（※の出席者はWEB会議形式で参加）

3. 出席者

- (1) 委員 片野坂真哉委員長、知野雅彦委員（※）、友定聖二委員、石井吉春委員、檜森聖一委員、上浦正樹委員
- (2) オブザーバー 国土交通省 石原大鉄道局審議官
国土交通省北海道運輸局 岩城宏幸局長
鉄道・運輸機構 伊地知英己経営自立推進統括役
- (3) JR北海道 島田修会長、綿貫泰之社長、今井政人副社長、宮越宏幸常務、萩原国彦常務、島村昭志取締役、川戸俊美取締役、島津勝一取締役

4. 議事概要

(1) JR北海道グループ経営改善に関する取り組みについて

「JR北海道グループ経営改善に関する取り組み」について議論した。

委員より以下のご意見があった。

- コロナ禍の大変厳しい中で、経営・社員一丸となって成果を出している。
- 今年度は、鉄道収入、開発関連事業の両方で高い目標に取り組むべきである。
- 黄線区について、引き続き地域とコミュニケーションを取りつつ、スピードを上げて取り組んでもらいたい。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 鉄道運輸収入がコロナ前の100%まで戻らないと想定している中、さらに燃料費の高騰も踏まえ、危機感をもって取り組む。
- ◆ 鉄道については、インバウンド需要の取り込み強化や、イールドマネジメントなどによる収益の最大化、開発関連事業については、事業ポートフォリオの変革を進める。
- ◆ 単独では維持困難線区について、維持する仕組みを構築できるよう、地域と丁寧にコミュニケーションを取りながら、国や北海道とも打合せしつつ、取り組んでいく。

(2) 事業ポートフォリオの変革に向けた取り組みについて

「事業ポートフォリオの変革に向けた取り組み」について議論した。

委員より以下のご意見があった。

- 鉄道事業は先細りではなくキャッシュを生むとの確信をもって取り組み、それを下支えとして開発投資をすすめていくべき。
- 北海道における事業展開では、札幌周辺が大きなポテンシャルを持つところであり、ここに集中すべき。

- 投資と事業を分けて考えた方が良い。投資ではパートナーを求め共同投資をして配当収入を得る。また、事業ではしっかりとリターン、利益を求めていくべき。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 6月に組織改正を行い開発事業本部の体制を整えている。今後は既存の 카테고리 だけではなく、新しい事業にもチャレンジしていく。

(3) 若年退職の状況と対応について

「若年退職の状況と対応」について議論した。

委員より以下のご意見があった。

- 保線の仕事は非常に重要であるということを先輩社員が後輩に直接伝えていくといったやり方が効果的である。
- 抜本的な人事制度改革が必要。ジョブ型、ワーケーション、フレックスタイムの活用など、他社での取り組みを参考に実行していくべき。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 仕事の面白さを伝えることを含め、社員のやりがいを高めるべく取り組んでいく。
- ◆ DXの活用といった、仕事の仕組みづくりから取り組むことが重要と認識。特に、女性にとって働きやすい職場づくりについて早急に取り組んでいく。

(4) 社員意見・アイデア募集について

「社員意見・アイデア募集」について議論した。

委員より以下のご意見があった。

- 提案した社員を激励する取組を具体的に行っていることは評価できる。また、提案を実際の施策に反映させ、実行していくことで社員のやりがいに繋げていくべき。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ アイデアの中には中期経営計画に活かせる提案も多くあった。これらの提案を施策に反映させることで、社員のモチベーションアップにも繋げていく。

以 上